

日本側拠点機関名	宮崎大学
日本側コーディネーター所属・氏名	産業動物防疫リサーチセンター・三澤尚明
研究交流課題名	ハブ拠点との連携による東南アジア地域の畜産の生産性向上と産業動物防疫体制の強化
相手国及び拠点機関名	タイ：国立動物衛生研究所 インドネシア：ポゴール農業大学

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】交流期間(最長3年間)を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。

宮崎大学は、宮崎で発生した口蹄疫の経験を踏まえ、平成23年10月に産業動物における防疫戦略構想の構築や世界水準の教育・研究を実践するための「産業動物防疫リサーチセンター」を設置し、国際シンポジウムの定期開催やJICA研修生受け入れ、東南アジア地域の大学や研究機関との国際共同研究を行ってきた。当該センターは、一連の大学機能強化構想の中で国内外からのニーズを受けて設置したもので、口蹄疫等の海外悪性伝染病が国内で発生した場合に備え、防疫措置の立案、感染ルートの解明や拡大予想を行う疫学研究、再発防止等の適切な対策を講じることのできる危機管理能力と産業動物の取り扱いに熟練した実践力を併せ持つ獣医・畜産従事者を養成すること、さらには感染症制御から生み出される食の安全性確保に貢献する研究開発を主な目的としている。

本事業では、本学「産業動物防疫リサーチセンター」を産業動物防疫の日本側拠点として位置づけ、東南アジア地域のリーダー国であるタイとインドネシアの獣医系主要教育研究機関と連携し、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザを含む重要家畜伝染病の発生・伝播疫学や防疫対策、さらには食肉の安全性確保をテーマに、情報ネットワーク、共同調査研究および研修教育事業を柱とした産業動物防疫拠点ネットワークを構築する。これにより、タイとインドネシアにASEANの産業動物防疫をリードする教育研究ハブ拠点を形成し、また我が国においては我が国で発生の見ない海外悪性伝染病に対する高度専門家を実践的に養成し、経験と知恵に裏打ちされた理論的かつ合理的な感染症制圧体制の教育啓発が行える日本初の産業動物防疫分野における教育・研究拠点創出に繋げる。

【研究交流計画の概要】 共同研究、 セミナー、 研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。

宮崎大学・産業動物防疫リサーチセンターは、畜産新生研究による生産性の向上と防疫体制の強化を目的として、10カ国の研究者が参加する国際防疫コンソーシアムを構築しており、本事業では、我が国に直接的な影響があると考えられるASEANにおけるコンソーシアムのハブ拠点であるタイおよびインドネシアとの研究交流計画を遂行する。この交流を通して、相手国機関のキャパシティ・ディベロップメントを促し、アジア・モンスーン気候の畜産形態に適応した相手国の自発的な防疫戦略の構築を醸成する一方で、国際共同研究を通して、我が国では取り扱いが困難な口蹄疫を含む海外悪性伝染病の診断・予防に関する先端的研究を発生国で実践的に展開し、さらに畜産食品の安全性確保に不可欠な応用的新技術を開発し、世界の食糧基地として機能するASEANにおいて持続的畜産資源確保に貢献する研究を展開する。

共同研究

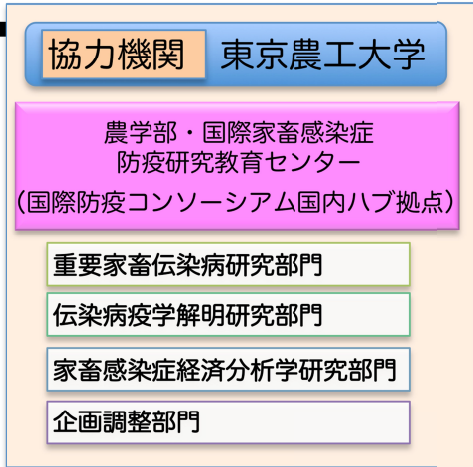
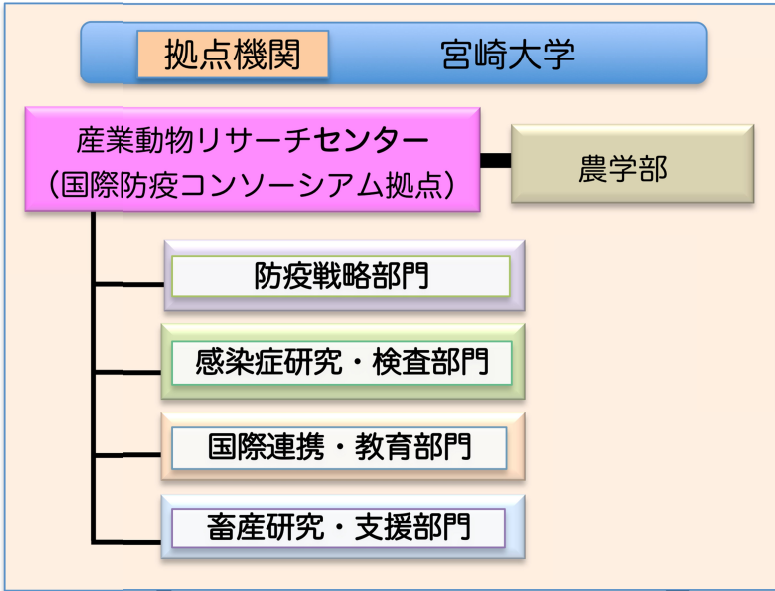
日本側研究班が有する迅速および網羅的家畜感染症診断システムを連携国に導入し、口蹄疫を含む主要な悪性家畜伝染病および食中毒に関連する病原体の診断システムを確立して、連携国において各感染症の病原体解析および伝播疫学に関する研究を展開して制御法を探索し、「主要感染症フリーの家畜づくり」を目指す。また、日本側拠点機関で開発した食肉における食中毒病原体の制御技術の導入も行う。

セミナー

研究成果の共有や情報交換のネットワークの構築を目的として、共同研究成果に関する国際シンポジウムや交流セミナーを我が国および参加国で定期開催し、情報の共有を図る。

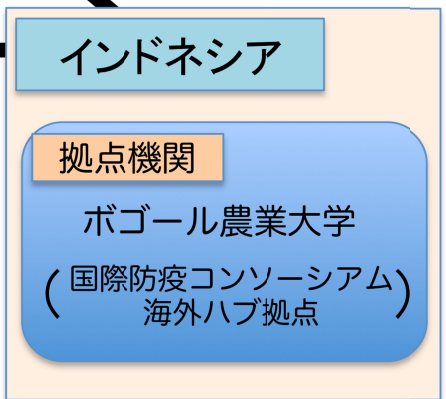
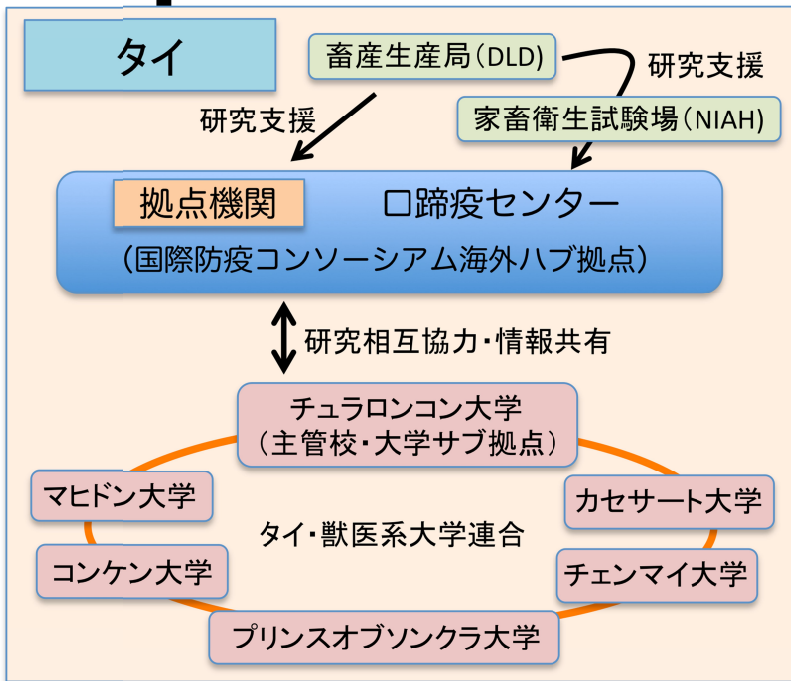
研究者交流

各相手国の若手研究者を日本に招聘し、研究技術および研究内容についてのトレーニングを行い、持続的な共同研究開発を支える人材育成を実施する。さらに、産業動物防疫リサーチセンター側の研究者が各相手国を訪問し、共同研究や技術移転を行う。



研究相互協力・情報共有

国際共同研究
国際シンポジウム共同開催
国際共同教育
技術・情報交換



研究相互協力・情報共有